鶴報

第２４５号
2021年12月20日

日本大学鶴ヶ丘高等学校　広報部
東京都杉並区和泉２－26－12
TEL 03−3322−7521（代）
https://www.tsurugaoka.hs.nihon-u.ac.jp

第68回鶴ヶ丘祭

学　校　行　事 《 第２学期 》

９月１日	始業式・防災学習（動画）
２日	１・2年スタディーサポート
２日	３年基礎学力到達度テスト模擬
４日	３年大学入学共通テスト説明会
12日	3年特進コース・普通コース（希望者） ベネッセ・駿台マーク模試会場受験
15日	1年キャリアガイダンス
22日	３年基礎学力到達度テスト
24日	生徒会役員選挙
10月１日	生徒総会
２日	3年普通コース三者面談（６日まで）
４日	日本大学創立記念日
11日	3年特進コース・普通コース（希望者） ベネッセ・駿台記述模試
13日	１・2年中間試験（16日まで）
23日	受験生保護者対象入試学校説明会
27日	2年大学模擬講義
31日	3年特進コース・普通コース（希望者） ベネッセ・駿台共通テスト模試会場受験
11月２日	２年特進コース記述模試（４日まで）
４日	１年記述模試
６日	鶴ヶ丘祭（７日まで）
６日	中学生対象入試学校説明会
10日	２年生徒対象進路説明会
10日	3年期末試験（12日まで）
15日	１・２年三者面談（17日まで）
20日	１・2年コース選択締切
20日	受験生保護者対象入試学校説明会
27日	2年期末試験（１日まで）
29日	3年特進コース・普通コース（希望者） 三者面談（４日まで）
12月３日	2年先発班修学旅行出発（７日まで）
４日	2年後発班修学旅行出発（８日まで）
６日	1年期末試験（９日まで）
11日	答案返却授業（13日まで）
17日	１・2年学修リフレクション
20日	終業式
22日	冬期外部特別講座（28日まで）

第六十八回 鶴ヶ丘祭に寄せて

学校長　川原　容子

昨年に引き続きオンラインではありますが、鶴ヶ丘祭を開催することが出来ました。

先ずは、コロナ禍の下、鶴高生達とそのご家族及び全教職員が、元気に開催を迎えられるのが、何よりもうれしいことです。

本年度のテーマは、

『千　祭　一　遇』

千載一遇の漢字をかえて、めったにないような思い出に残る文化祭を作ろうという意味でした。

感染症拡大に直面した当初、日本を含めた世界は、これといった対策を打ち出せないまま、不安と恐怖に打ちのめされました。ただただ、息を潜めて閉じこもり、収まるのを待っていることだけで精一杯でした。

しかし、そのような状況の中でも本校は、相手を思いやり・信じて支えていくことで、昨年九月以降、出来ることから少しずつ行動し始めました。

文化祭などの行事をはじめ、すべての教育活動において、全教職員はもちろん生徒達も、『**考えたこともなかったことを考え**』悩む、辛い時期もありました。その中で、当たり前のようにしてきた対面での活動が、これほど大切で、必要なものだったかを思い知らされた次第です。

感染が終息したわけではありませんが、出来ることを考え、アイデアを出し合い、工夫を重ね、協力して『**千祭一遇**』を体現するために頑張ることができました。

また、その中からも生徒達の成長を実感することも多く、とても有意義でテーマにふさわしい文化祭となりました。

本校の文化祭の歴史は、創設三年目の昭和二十九年第一回学園祭がスタートです。この時代は、戦後まだまだ厳しい時代だったと想像できます。当時の鶴高生たちは前例もない中、正に『**考えたこともないことを考え**』生み出したと思います。

戦後と未曽有のコロナ禍、いずれも辛く厳しいことが多いですが、『**平和**』であることはとても幸せです。支え、支えられる信頼できる家族や仲間がいる。加えてこの現代においては、科学技術の進歩のお陰で、私たちはオンライン上で繋がることが出来ています。

令和三年度
めったにないような
思い出に残る文化祭

昨年度に引き続き、一生忘れない文化祭になったと思います。

全生徒並びにご家族・全教職員とご家族に対し、この場を借りて、改めて心から感謝申し上げます。

千祭一遇

鶴ヶ丘祭実行委員長
二Ⅰ　小林菜々美（調布中）

今年度もオンラインでの文化祭となりました。今年は、昨年度にオンライン文化祭を経験したこともあり、どのクラスもレベルが高い作品となっていました。また、コロナの感染状況が落ち着いてきたこともあり、各クラス楽しみながら撮影することができました。

今年の鶴ヶ丘祭のテーマは、「千祭一遇」です。鶴高で巡り会えた仲間たちと、特別な文化祭にしてほしい思いをこめてこのテーマにしました。私たち実行委員は、夏休み前から鶴ヶ丘祭を成功させるために準備してきました。私は委員長として活動していく中で、うまくいかないことや悩んだりした時もありました。先生方や実行委員、生徒会の皆さんに支えてもらい、鶴ヶ丘祭を成功に導くことができました。

最後になりますが、今年もオンライン文化祭となってしまい、残念に思う方もいたかもしれませんが、オンライン文化祭だからこそ生まれた友情や思い出になった、鶴ヶ丘祭になったのではないでしょうか。来年は、コロナも収束し、文化祭が行われることを願っています。

千祭一遇　動画に込めた思い

第六十八回鶴ヶ丘祭を終えて

生徒会指導部主任　磯崎　宏

正門の銀杏の葉が黄色くなる秋本番の十一月六日（土）七日（日）に、第六十八回鶴ヶ丘祭が開催された。六日（土）は三年生のみ登校、七日（日）は一・二年生のみ登校し動画視聴という形式である。

テーマは『千祭一遇』。日々学校で友人と会える喜びを知った今、クラスや部の思いを一本の動画に込めた。ジャンルは自由、モラルとマナーを守り工夫を凝らした。選曲や振付けにその年の流行や趣向が現れるから面白い。編集技術も向上し、見ごたえのある動画が完成した。クラスの特色が出た企画、文化部や体育部の活動紹介、実行委員会制作の特技動画など、普段見ることのできない一面が披露された。

夏休み中から撮影を始め、クラス全員が登場しダンスや演技・演奏をする、黒板アートや装飾・衣装に凝り、テレビ番組・コマーシャル・映画をリサーチし、古典の世界にいざなう。映る姿がマスク着用なのが令和三年度の証である。普段見られないような友人の生き生きとした姿、あまり話さないが積極的に協力する姿、撮影時には恥ずかしさを捨てて演技する姿、裏方の買い出しや衣装作りなど協力する姿、突き指にもめげずにカメラを回す姿などたくさんの「ありがとう」で鶴ヶ丘祭は成り立っていると、実行委員長が述べていた。一生懸命に取り組んだ仲間に感謝することができれば、思いやりの心も育まれる。そのような文化祭であったならば、きっと鶴高生たちは今後生きていく中で、人として最も大切なものを得ることができたであろうと確信する。

●全国大会出場記●

ウエイトリフティング部

第六十八回全国高等学校総合体育大会
男子ウエイトリフティング競技選手権
男子89kg級

「改めて気が付いたこと」

三C　田中　寧栞（高島三中）

自分の人生の中で、とても充実した三年間になった。学業と部活動の両立、いわゆる「文武両道」が完璧に出来たかというと、そうではなかった。しかし、その時その時の自分のベストは尽くすことが出来た。

高校生活の一番の出来事は間違いなくウエイトリフティング部に入ったことだ。最初はとても迷った。自分に出来るか、自信はなかった。しかし、競技をやっていくにつれて、自然とウエイトリフティングにのめり込んでいった。その結果、二年次には関東大会で三位入賞、三年次はインターハイに出場することが出来た。新型コロナウイルスによって練習が十分に出来ない時期もあったが、先生と監督のサポートがあったことで最後のインターハイに向かう気持ちに変わりはなかった。この競技を通じて、毎日の積み重ねの大切さ、礼儀、個人競技だが部活動はひとつのチームであることなど学んだことは数えきれない。

競技を通じて学んだことは学業にも通じるものだ。毎日の積み重ねを続けることを意識し、部活動で家に帰るのが遅くなることも多かったが、時間の使い方、勉強の仕方を工夫した。

高校三年間は充実した三年間とも言えるが、周囲のサポートを実感出来た三年間とも言える。家族、先生方、先輩方、友人、後輩達など本当に沢山の方々のサポートがあったことに気が付いた。改めて多くの方々に感謝を伝え、その気持ちを持ち続けていこうと思う。

第六十八回全国高等学校総合体育大会
男子ウエイトリフティング競技選手権
男子67kg級

「文武両道で得た自信」

三G　阪本　広太（川崎市立稲田中）

全く経験や知識も無かったウエイトリフティング部へ飛び込んだ高校生生活。なかなか目標を見いだせず学業との両立が難しいと感じた時もあったが、念願のインターハイ出場を獲得でき、全国二十五位の結果を残せた。

私にとっての集大成、最後の試技。緊張というより「やってやる！」という気持ちの方が強かった。試合前、監督や先生と気合いを入れ向かったプラットホーム、思いのほか大きな会場、目の前にいた大勢の人、あの景色は今でも忘れません。

多くの制約が伴う高校生活で、満足のいく活動が出来なかった。そのような少ない時間の中で声を掛け合い互いに刺激し合った仲間たち、三年間熱い指導をしてくださった清水監督や高部先生、応援してくださった方々には、本当に感謝しかありません。鶴ヶ丘高校ウエイトリフティング部の思い出は、私にとって宝物であり、今後の人生において大きな影響を与えてくれると確信しています。

放送部

第六十八回ＮＨＫ杯
全国高校放送コンテスト

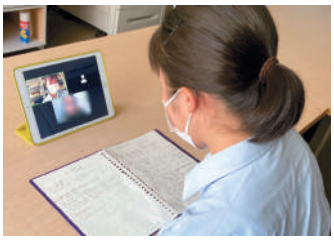
「コロナ禍での全国大会」

放送部顧問　近藤　明宏

全国の放送部員にとって憧れの大会はＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト全国大会（Ｎコン）である。昨年度は新型コロナウイルス感染症により、都道府県大会および全国大会が中止になった。昨年二月に発出された緊急事態宣言から八月まで活動はオンラインのみ、活動再開後も部活の特性上、発音・発声など飛沫感染リスクが高い活動内容が多いため、通常の活動とはほど遠い状態であり顧問・部員一同頭を悩ませる問題となった。また、昨年度四月（現二年生）の新入部員が史上最少の一名となり、部の存続も危ぶまれる事態になってしまった。東京都高等学校文化連盟放送部門においても、幾度もオンライン会議が開催され、「どんな形であれ大会は開催しよう」ということが共通認識となった。昨年十一月に開催された東京都高等学校文化祭放送部門（秋大会）については、作品提出審査という形であるものの、制限された活動で制作された作品や朗読・アナウンスなどの個人部門においても評価される機会が復活した。生徒は全く会場に足を運んでいなかったが、オーディオドラマ部門・テレビドラマ部門で入賞を果たすことができ、部員にとって大きな励みになった。

Ｎコンについても同様「どんな形であれ開催しよう」ということが決定していた。感染状況次第では会場での生徒参加での開催を計画していたが、残念ながら全国での感染が拡大し、作品提出審査に落ち着いた。今年度は新入生が七名となり、基礎練習もままならない状態であったが、一～三年生までの部員のほとんどが個人部門に参加し、作品についても創作ラジオドラマ、創作テレビドラマ、研究発表の三部門で出場し、この三部門で全国大会出場を叶えることができた。七月末の全国大会のころには感染縮小を願っていたが、残念ながらオンライン開催となってしまった。当日は、大会役員で顧問の私だけが全国大会会場に足を運んだ。本来四〇〇〇人収容できるホールに関係者数十名というなんとも寂しい状況ではあったものの、作品が評価される機会がなくならなかったことには感謝したい。また、研究発表部門についてはＺｏｏｍを用いて全国の高校をつなぎ発表及び交流を実施することができた。唯一のリアルタイムの交流の機会が与えられたことに感謝したい。次回大会はリアルの交流ができることを期待したい。

ZoomPal Project　令和３年８月11日（水）



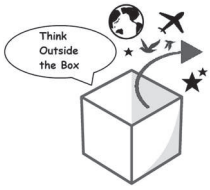
昨年に引き続き、２回目となるZoomPal Projectが始まりました。提携校であるGrace Lutheran College（オーストラリア･ブリスベン）との共同企画です。「コロナ禍でも国際交流をあきらめない」をスローガンに、オーストラリアの高校生との友情づくりに挑戦すべく、今年も15名の生徒が集まりました。

また、今年は新たな取り組みとして、ZoomPalの活動をまとめた動画で『全国高校生　何でも、アリ。Creative Award2021』に参加しました。生徒達が自分たちで作り上げた「コロナ禍の高校生はかわいそう、なんて言わせない！」という強いメッセージがこもった素晴らしい映像となりました。学校の内外に思いを伝えていく機会に恵まれ、生徒達も成長したことと思います。さらに新しいことに取り組むZoomPalメンバーの活躍を今後もご期待ください。

ZoomPal Projectリーダー　岩本　佳波（２Ｋ・調布四中）

このZoomPal Projectは「国際交流」という言葉のお固い印象とは全く違う雰囲気で、悩んだ時間の何十倍も楽しかった瞬間が思い浮かびます。今年は高校生クリエイティブアワードにも参加しました。ZoomPalの活動を通してできた思い出たちを残したくて写真アートを提案しました。コロナ禍で数々の我慢を強いられてきた高校生活ですが、今できること、今しかできないことをしよう、という前向きなメンバーたちの考え方に私自身とても救われました。

留学カフェ～ Think Outside the Box ～を開催しました



コロナ禍にあってもなお、「外の世界に飛び出していきたい！」と考える鶴高生のため、『留学カフェ～Think Outside the Box～』をオンラインで開催しました。留学経験を持つOB・OGをゲストとして招き、のべ50名の参加生徒に向けてそれぞれの体験談を披露してもらいました。楽しいことばかりではなく、辛いことや大変なことが留学生活にはつきものですが、どんな逆境にもくじけずに自分の道を切り開いた先輩たちのお話に、生徒達もエネルギーをもらったようでした。今後も、OBOGとコラボレーションしさらに実りのあるイベントを作っていきたいと思います。

第１回ゲスト　2020年度卒　金居　弘剛さん（Willamette University）
第２回ゲスト　2018年度卒　飯塚映励奈さん
（State University of New York, Purchase College）

桜園会と同窓会からの報告

桜園会の常任幹事会では、７月17日（土）、日野市にある高幡不動尊に参拝をしてまいりました。

大学進学・資格試験・就職など、生徒の希望が叶うよう合格成就の護摩を焚いていただきました。授かった護摩札は、３学年主任の久保田先生にお渡しの上、教員室にお祀りしてあります。

また、同窓会では基礎学力到達度テスト前日の７月21日に、代表者が湯島天満宮（湯島天神）を参拝し絵馬を奉納して、後輩たちの好成績を祈願してまいりました。

頑張れ３年生!!

第54期 生徒会役員紹介

会　長　川崎　湊太（二Ａ・深沢中）

私は、変わるべき事があるなら私の代でそうすべきだと思っています。校則を読み直してルールと学校生活との関わりを確認した上で、変えるべきことや、加えるべきシステムが有るか考えていきます。新体制でも団結して生徒会活動を行っていきます。よろしくお願いします。

副会長　辻口　巴菜（二Ａ・熊大附属中）

生徒会副会長として、学校のためになにをするべきかしっかりと考え行動したいと思います。コロナ禍だからこそできることを探し、生徒の皆さんが楽しく学校生活を送れるよう頑張っていきたいと思います。一年間よろしくお願いします。

副会長　三ヶ島菜菜子（二Ｆ・十条富士見中）

私は、昨年度のイレギュラーな状況から得られた経験を活用して、新たな形でより楽しい学校生活の提案をしていきたいです。昨年度出来なくなったことが多かった分、今年度はより多くの思い出を残せるような環境を作っていきたいです。昨年度に引き続き、今年度もよろしくお願いします。

書　記　村上　琴乃（一Ｃ・板橋三中）

自ら考え自ら行動し、先生さえも引っ張っていくだけの力が私たちにはあります。やりたい事があったらいつでも生徒会に相談しに来てください。全力でサポートし、できる限り多くの要望に応えます。私が生徒会役員になって一番にやりたいのは、交流を活発化させる活動です。生徒と生徒、先生と生徒がもっと関わり合える場を増やしていきます。存分に期待していて下さい。

書　記　河内　夕奈（一Ｃ・南が丘中）

コロナ禍でもみなさんが楽しめるように工夫して行事などを考えていきます。また、先生方や生徒一同の期待に応えられるように誠心誠意、一つ一つの仕事に向き合います。一年間よろしくお願いします。

会　計　一　航生（一Ｃ・大泉学園桜中）

コロナ禍で様々なことに制限がかけられており、一部の意見では二、三年以上続くと言われています。コロナ禍だからこそ出来ること、出来ないことを考えて行動していきます。分からないことも多く力が及ばないこともあるでしょうができる限り頑張っていきたいと思います。

会　計　三浦　日菜（一Ｃ・信州大附属松本中）

私が目指す理想の生徒会は、生徒と委員会や教員が連携をとりながら意見を交換し合い、こんな事がしたいと言った生徒の願いを反映出来る機会を増やす生徒会です。その為にも学校一体となった活発な意見交換の場を増やしたいと考えています。

令和三年度　特待生・奨学生

七月三日（土）に、本校多目的ホールにおいて、今年度の日本大学特待生と、本校奨学生に対する授与式が行われました。受賞者は以下の通りです。

受賞者氏名

日本大学特待生

三Ａ　松澤　憲吾（調布七中）
三Ｆ　征矢　ゆら（武蔵野六中）
二Ｈ　増田　海希（松渓中）
二Ｋ　宮崎　歩梨（千歳中）

日本大学鶴ヶ丘高等学校奨学生

◎第一種

三Ｅ　大友　裕太（稲城六中）
三Ｌ　太城　穂香（中山中）
三Ｍ　鈴置さくら（霞台中）
三Ｍ　外島　航太（調布七中）
二Ｉ　富澤　亜弥（北町中）
二Ｋ　滝沢　奈己（杉森中）
二Ｋ　柳澤　潤（三鷹三中）
二Ｋ　松村　真麻（狛江三中）

◎第二種

一Ｅ　佐野　理奈（松沢中）
一Ｆ　木村　栄輝（府中六中）
一Ｇ　牧野　史歩（東久留米西中）
一Ｋ　比江島　幹（西宮中）
一Ｌ　上田ひかる（三鷹五中）
一Ｌ　崎田　恋（内谷中）

日本大学鶴ヶ丘高等学校英明奨学生

◎第一種

三Ｂ　西田　邦彦（和泉中）
三Ｌ　稲垣　幸大（芦花中）
三Ｌ　水野　泰樹（武蔵野四中）
三Ｍ　木下　歩純（調布三中）
二Ｂ　末廣沙弥香（東調布中）
二Ｋ　伊藤　百代（船橋希望中）
二Ｋ　荻島　日和（打越中）
二Ｋ　山上　結衣（上祖師谷中）
一Ａ　森谷　海玲（千川中）
一Ｅ　相宮　優佳（赤塚二中）
一Ｌ　三隅　朱莉（井荻中）
一Ｌ　道田　優太（池袋中）

広　報　室

〈異動（転出）〉

河本　季希 事務課員

令和３年７月１日付で、生物資源科学部就職指導課へ転出されました。

黒崎　弘平 事務課員

令和３年７月１日付で、生物資源科学部管財課へ転出されました。

〈異動（転入）〉

山口　恭子 事務課 課長補佐

令和３年７月１日付で、生物資源科学部就職指導課から本校に着任されました。

部活動報告

■陸上競技部
▽東京都高校新人大会第４支部予選会
９/４・５
女子800m
７位入賞　2:32.81
伊藤　美咲（１K・高松中）
８位入賞　2:33.39
山崎　結萌（２K・本町学園中）
女子1500m
６位入賞　5:17.41
山崎　結萌
８位入賞　5:19.25
新道　彩子（２C・銀座中）
女子3000m
６位入賞　11:33.99
新道　彩子

■野球部
▽第103回全国高等学校野球選手権記念大会西東京大会（７/３～８/２）
３回戦　本校０-７聖パウロ学園
▽令和３年度秋季東京都高等学校野球大会（９/４～11/７）
一次予選
１回戦　本校11-１日本橋・芦花
２回戦　本校３-２昭和
本戦
１回戦　本校０-８佼成学園

■男子バレーボール部
▽関東大会都予選（４/18・25）
１回戦　本校２-０調布北
２回戦　本校０-２多摩大目黒
▽インターハイ予選（５/30・６/13）
２回戦　本校２-０足立工
３回戦　本校２-１昭和第一学園
４回戦　本校０-２東京立正
▽全日本１次予選（10/３）
２回戦　本校１-２都立青山

■男子ソフトテニス部
▽国体選手選考会（６/27～７/22）
都ベスト12
伊東　稜真（３B・清明学園中）
▽新人大会（８/24～26）
都ベスト64
小亀　臣仁（１D・志木中）・
山本　陸（１J・井田中）
都ベスト64
板橋　壱成（１H・桜川中）・
山田　真聡（２D・玉川中）
▽東京私立高等学校ソフトテニス大会（９/12～10/10）
個人戦　出場
団体戦　都ベスト16
坂口　祥梧（２B・日吉台西中）
大関　悠生（２J・立川七中）
小亀　臣仁
滝口　陽太（２K・菅中）
板橋　壱成
山田　真聡
金子　祐万（１J・御成門中）
丸山　賢二（１K・赤塚三中）

■女子ソフトテニス部
▽東京都高等学校女子ソフトテニス城西地区大会（８/18）
ベスト16
長島　美鈴（２K・中野東中）・
大坪紗矢香（２D・三鷹一中）
▽東京都高等学校女子ソフトテニス新人大会（８/25・26）
ベスト32
長島　美鈴・大坪紗矢香
中村　結衣（１G・高南中）・
片野　麻衣（２I・鶴見中）
ベスト16
古村　杏（１L・貝塚中）・
石本まなみ（１C・薬師中）
▽新進大会（10月24・31・11月３日）
ベスト64
古村　杏　石本まなみ
▽東京インドア予選大会（団体戦）（11月21日・23日）
ベスト16（本戦出場）

■アメリカンフットボール部
▽令和３年度東京都春季大会兼第47回関東高等学校アメリカンフットボール大会予選（５/23～６/20）
１回戦　５月23日（日）　シード
２回戦　５月30日（日）
本校０-14明治学院
@日大鶴ヶ丘高Gr.
▽令和３年度第47回関東高校アメリカンフットボール大会は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により大会中止
▽令和３年度東京都秋季大会兼第52回全国高等学校アメリカンフットボール選手権大会予選（10/３～10/24）
１回戦　10月３日（日）　シード
２回戦　10月10日（日）　シード
３回戦　10月17日（日）
本校34-０早稲田実業
@日大鶴ヶ丘高Gr.
４回戦　10月24日（日）
本校13-24駒場学園
@日大鶴ヶ丘高Gr.
東京都ベスト８

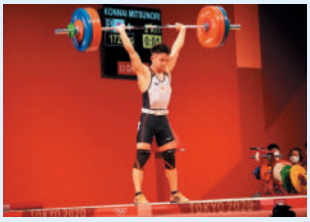
■放送部
▽第68回NHK杯全国高等学校放送コンテスト東京都大会（予選６/６、決勝６/13）
【創作テレビドラマ部門】
優勝　Lilly
制作代表
平田　悠乃（３I・足柄台中）
※全国大会出場
【創作ラジオドラマ部門】
第２位　にんきもの
制作代表
田中　咲希（３I・千歳中）
※全国大会出場
【研究発表部門】
第２位
ライブプロダクションスイッチャーを用いた校内放送の可能性
研究代表
左官　美咲（３E・晴海中）
※全国大会出場
▽第68回NHK杯全国高等学校放送コンテスト全国大会（７/10、26～29）
【研究発表部門】
《オンライン発表》
研究奨励
ライブプロダクションスイッチャーを用いた校内放送の可能性
研究代表　左官　美咲
▽第46回高等学校総合文化祭東京大会（とうきょう総文2022）実行委員会
以下の生徒・教員が東京都教育庁より任命されました。
【放送部門生徒実行委員】
左官　美咲・平田　悠乃・
相宮　優佳（１E・赤塚二中）・
永井明日香（１E・千歳中）
【放送部門実行委員】
近藤　明宏
（顧問・高文連全国放送部門理事）

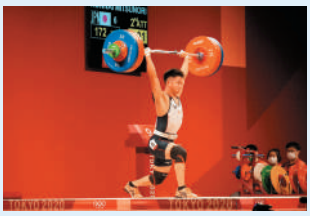
■吹奏楽部
▽第61回東京都高等学校吹奏楽コンクール（８/13、14）
B組　金賞・最優秀賞
C組　銀賞

■料理部
▽１年生部活動体験実施（５/13）
▽６月　料理検定＆菓子検定受検
▽オンラインミーティングwith Highers☆（７/15）
▽ジビエ料理に挑戦（７/20）
▽テーブルマナー講習受講@ハイアットリージェンシー東京（８/12）
▽料理部考案メニューお弁当販売実施（298食販売、10/26～28）

オリンピック出場報告（ウエイトリフティング）

令和３年７月25日に、本校事務課員である近内三孝選手が東京オリンピックのウエイトリフティング男子67kg級に出場し、７位に入賞しました。近内選手の体験記を掲載いたします。





夢の舞台に出て

今回、オリンピックではメダル獲得を目標にしていましたが、結果としては7位入賞という形で終わってしまいました。大会では、怪我の影響もあり、自分の思うような結果ではありませんでしたが、たくさんの方々から、応援メッセージなどをいただき、その応援が力になり、7位入賞を果たせたと感じています。あらためて、応援にはとても力があると感じました。試合が終わってからも「元気をもらった」、「勇気をもらった」、「感動をありがとう」などたくさんの言葉をもらい、これがオリンピックという夢の舞台の力なのだと感じました。自国開催でメダル獲得という目標は叶いませんでしたがあの特別な雰囲気の中で試技をすることができて本当に良かったです。

新型コロナウイルス感染症の影響で復興五輪という言葉が薄れてしまっていましたが福島出身の私が出場することによって福島県にも勇気を送ることができたと思います。

オリンピックに出場して、オリンピックは他の大会とは違う特別な大会だと感じました。もう一度あの舞台に立ち今回果たせなかった目標を達成するために３年後の2024パリオリンピックを目指し、金メダルを獲り表彰台の一番高いところに立てるように３年間という短い期間一歩ずつ前に進み頑張っていきます。

第68回鶴ヶ丘祭　「千祭一週」 2021年11月６日・７日